

第2回策定委員会 議事録

(平成20年3月24日(月)14時～16時：市役所本庁舎3階大会議室)

1 開会

2 委員長あいさつ

- 本日の委員会では、全市的な将来像と全体(分野別)構想を中心に議論する。各地域の具体的なイメージがわかりづらいかもしれないが、まずは総論から進めていくということで理解頂きたい。

3 議事

(1) 前回委員会の意見と今回の委員会の内容

<山口委員長>

- 「地域協議会」ではどのような意見が出されたのか。市長へ意見提示はいつ行うのか。

→ <幹事会長 総合政策課長>

各地域で地域振興計画を策定することとしているが、全地域 H19 年度に策定するものではない。H20 年度に策定する地域もある。それとは別に市長に対する提言・意見を求めており、それについては26日からヒアリングが行われる予定である。

(2) 大仙市の将来像

<委員>

- 7頁の神岡工業団地の件は、地域でも話題となっている。可能な範囲で進捗状況を教えて頂きたい。

→ <事務局> 100ha 規模の工業団地として新聞報道された。

県では、IT、自動車関係企業の誘致を図り、誘致企業決定後に造成に着手するとしている。

→ <オブザーバー 農林商工部長>

事業主体は県であり、現時点では大仙市として詳細な情報を把握していない。市議会でも特別質問等はない。

なお、県はH20年度、地質調査等を実施する予定である。また、4月11日午後7時30分より神岡地域での住民説明会を行う予定である。

<委員>

- 羽州街道の他、角館街道、由利街道など、西仙北地域にも多くの歴史資源、古文書などが残っている。菅江真澄の資料など、貴重なものもある。これらの資源を活かした活性化を目指している。地域活性化には地域の歴史を勉強することも重要である。

→ <山口委員長>

今後検討する「地域別構想」において貴重な地域資源を取り入れた計画としていくことが考えられる。

<委員>

- 組合病院移転の時期が 2014 年に決定した旨の新聞報道があった。組合病院は、大曲地域だけでなく全市にとっても重要な施設である。可能な範囲で情報を提供して頂きたい。

→ <幹事会長 総合政策課長>

これは、県が今後の厚生連支援方針を提示したことを受けて報道されたものである。厚生連として確定した情報ではない。最終的には、事業者（厚生連）が決定する。なお、厚生連では、病院の公設民営化を含めて検討を進めているようである。

→ <山口委員長>

現時点では未決事項であるが、都市計画マスタープランに記載すべきことである。移転場所とその周辺のこと重要であるが、中心市街地問題にからみ跡地活用方策の検討がおろそかにならないようにすべきである。

<山口委員長>

- 大曲駅前の中心市街地の方向性について、事務局サイドの考えを伺いたい。

→ <幹事会長 総合政策課長>

H20 度から中心市街地活性化基本計画策定に向けて検討に着手する。現在の中心である駅西地区は開業医などの医療系の集積もみられるため、高齢者が住みやすいまちに適していると考えている。

→ <山口委員長>

マスタープランは事業者に対して強制できるものではないが、「こうありたい」「こうあってほしい」というものを示すべきである。参考例であるが、青森の再開発ビル「アウガ」は、低層階がテナント、上層階に図書館や男女共同参画センターが入っているなどの工夫がみられた。また、駅前に高齢者用マンションが建つなど中心市街地のあり方も従来から変化してきている。

大仙市も今後、人口減少、高齢化が更に進んでいくため、早い段

階から方向性を指し示す必要がある。

＜委員＞

- 将来人口が推計値のようになった場合、今の構想が実現できるのか。人口減少を抑制するための方策（例：雇用機会創出のための産業、子育て支援、林業活性化など）をマスタープランに具体的に盛り込まないといけないのではないか。夢のある計画としたい。

→ ＜山口委員長＞

このことは「大仙市総合計画」に示されている。これに対して、都市計画マスタープランは、総合計画を踏まえ、都市計画に関する施策の具体化を行うものである。

マスタープランでは、具体的でわかりやすい施策を示すとともに、重点施策、地域ごとの特徴づけなどを検討していきたい。

＜委員＞

- 全国でも限界集落（高齢化率 50%以上）が問題視されているが、大仙市ではどのような状況なのか把握しているか。

→ ＜幹事会長 総合政策課長＞

「限界集落」の定義は、高齢者割合が 50%以上の集落である。新聞報道で大仙市にも限界集落が数箇所存在すると掲載されたが、これは高齢者福祉施設が立地するため、居住地の高齢者割合が 50%を超えたことによるもので、本質的な限界集落は、現在のところ存在しない。しかし、定義に照らせば、将来的には大仙市の全ての集落が限界集落ということになってしまう。

そのような状況下において、来年度より小規模集落のコミュニティ維持のための検討を進めていく予定である。

＜委員＞

- 若い世代の多くが転出している現状で、家には高齢者だけが残され、高齢者単身世帯も少なくない。若い世代のUターンも期待できない。集落を維持するための真剣な対策が必要である。若い世代が働ける場、農業の魅力向上施策などが必要ではないか。

→ ＜山口委員長＞

都市計画の範疇を超える部分は「総合計画」がカバーしているはずである。

都市計画サイドとしては集落の生活を支える物的な環境整備を進める都市づくりとして連携していく。

(3)全体構想

<山口委員長>

- 大仙市では、特に交通系施策の重要性が高いようである。

→ <幹事会長 総合政策課長>

路線バスの廃止などによる公共交通空白地にデマンド型乗り合いタクシーの運行を実施している。(大曲地域で実証実験)
また、乗り合い自動車、コミュニティバスなどについても検討している。

<委員>

- 16頁の市民協働などについて、大曲地域(市街地)は理解できるが、その他の地域のイメージが理解できない。都市計画が市民に理解されていないと思う。

→ <事務局>

市町村合併後最初の都市計画マスタープランであるため、各地域での勉強会開催など市民に説明しながら検討を進めて行きたい。

→ <山口委員長>

市民にとって「都市計画」が何かわかりづらいことが問題である。本マスタープランは、法律に基づく「都市計画区域」だけではなく、都市計画区域外も含めた全市域を対象としている。また、広く市民に理解してもらうため、視覚的にわかりやすいマスタープランとしていく必要がある。

4 今後の予定等

<山口委員長>

- 委員会を開催しながら3つのことをやることとしている。1つ目は商工や地域協議会との意見交換、2つ目はシンポジウム、3つ目は地域別懇談会である。

<委員>

- 地域協議会との意見交換の方法はどのように考えているのか。

→ <事務局>

詳細は未定である。

事務局で具体につかんでいないため、まずは総合政策課との内部協議、現在の協議会報告成果確認を行い、その後、具体的な方法を検討し、お願いするという流れで考えている。

<委員>

- 地域別懇談会の開催は良いことだと思うが、太田地域は都市計画区域外でもあり、

地域住民の感心は低いと思われる。懇談会に集まって頂けるか不安もある。また、都市計画と市総合計画の関係がわかりづらい。都市計画マスタープラン（都市計画事業）でやる（やれる）ことを明確にしておく必要がある。

<委員>

- マスタープランは総花的になってしまうことが懸念される。これまでの都市計画は時代変化に流されて迷走している感がある。「ここだけはこう変えないといけない」など、しっかりした考え方を示すべきではないか。

<委員>

- 市民との対話について、幅広い市民層の意見を聴くようお願いしたい。子ども、大人、高齢者、また、女性の立場の意見も聴くようにしたい。

<山口委員長>

- これまで発言を頂いていない方からも意見、感想を頂きたい。

<委員>

- 地域高規格道路（本荘大曲道路、大曲鷹巣道路）は、現実的には実現が難しい。県予算は10年前の1/3となっている。2年前、大曲西道路6.8kmが開通したが、226億円（1mあたり333万円）の費用がかかっている。大曲鷹巣道路は3~4千億円、本荘大曲道路も多額のコストとなるため、現在の財政状況では整備の可能性は極めて低いと言わざるを得ない。
しかし、必要な道路整備については熱心に取り組む必要があると考えている。

<委員>

- シンポジウムは良い考えだと思う。多くの市民を集客し、都市づくりの起爆剤になるとよい。

<委員>

- 大仙市としてコンパクトシティを目指すのか。郊外部への市街地拡大もあり、10~20年では不可能であろう。従来の考え方にとらわれず、新たな発想も必要であろう。
- 大仙市は農業で形成されてきた地域であることを再認識し、基幹産業である農業のあり方を考えることも重要である。

<委員>

- 新聞報道で「高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致に手を挙げた自治体があったが、議会で否決された」というものがあった。大仙市には広大な土地があり、予算

確保ということを考えればこのような選択肢も考えられる。秋田県は、昔から地下開発技術も高く検討の価値があるのではないか。

<委員>

- そのような発想もあるだろう。ただし、安全性確保、市民の理解が重要となるが。

<山口委員長>

- この意見の賛否は議論できないが、今後の都市づくりには大胆な発想も必要である。

<委員>

- 国土交通省では「川まちづくり」や国道4号のバイパス化などを進めている。現在、道路特定財源問題により今後の予定などは不透明になっている。

<山口委員長>

- 大仙市の今後の都市づくりについては、時代の要請に応じた大胆な発想も必要である。最終的な判断は市に委ねられるが、この委員会の議論では、市民が夢をもてるようなアイデア・意見交換や提案を行っていきたい。

【事務局連絡】

- 前回委員会にて、委員長より提案のあった「委員会の公開」について庁内の合意を得て公開することとなった。今回は事前に広報紙に掲載できなかったため、ホームページのみでの傍聴希望者募集としたが、申し込みはなかった。次回は、広報紙でも募集を行う予定である。
- 情報公開する議事録について、発言者氏名を公表すべきか否か、意見を伺いたい。

→ <各委員>

忌憚ない発言を促すためにも発言者氏名は伏せた方がよい。

【その他】

- 配布資料の下地がカラーでメモ書きができないので改善願う。

→ <事務局>

了解。次回より改める。

5 閉会

～ 以上 ～

【第2回検討委員会（平成20年3月24日） 出欠簿】

大仙市都市計画マスタープラン策定委員会名簿

No	氏名	職名等
1	山口邦雄	秋田県立大学 システム科学技術学部 准教授
2	浜岡 正	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所 副所長(道路)
3	有明滋夫	秋田県仙北地域振興局建設部 次長
4	山本 茂	秋田県大仙警察署 署長 欠席
5	伊藤辰雄	大曲地域協議会 会長
6	鈴木和栄	神岡地域協議会 会長
7	工藤淳志	西仙北地域協議会 会長
8	鈴木貞一	協和地域協議会 会長
9	伊藤辰郎	南外地域協議会 会長
10	佐藤力哉	仙北地域協議会 会長
11	傳農富士夫	中仙地域協議会 会長
12	加藤 達	太田地域協議会 会長
13	後藤幾久雄	大仙市東部農業委員会 会長
14	湊 陸和	東日本旅客鉄道株式会社大曲駅 駅長 欠席
15	小松喜美子	大仙市男女共同参画審議会 会長 欠席
16	有明秀太郎	大仙市社会福祉協議会 会長
17	塩谷國太郎	大曲商工会議所 専務理事
18	佐藤賢治	大仙市地区商工会合併推進協議会 会長 欠席
19	柴田勝三	大仙市建設部 部長 欠席

(敬称略)